

特定非営利活動法人ひょうご消費者ネット
第8回 シンポジウム「どうなる？食品表示の一元化」開催報告

平成24年12月1日（土）兵庫県農業共済会館 7階大会議室に於いて、ひょうご消費者ネットのシンポジウム「どうなる？食品表示の一元化」～私たち消費者が見極めるために～を開催しました。兵庫県、神戸市、兵庫県生活協同組合連合会 生活協同組合コープこうべの後援をいただき、当日は107名の参加がありました。この度のシンポジウムは、平成24年度兵庫県消費者活動担い手づくり事業の支援を受けて実施しました。

まず第一部では鈴鹿医療科学大学薬学部教授の中村 幹雄先生から「食品表示の課題と表示の一元化について」～食品の安全と安心を選び取るために～と題して基調講演をいただきました。消費者庁「食品表示一元化検討会」・委員として法制化に関わられた経緯から、新食品表示制度のポイント、法制化への当面のスケジュール、一元化後の法体系などについて解説していただきました。一方、保存温度変更食品など、現在の加工食品の複雑な実態について、食品の事例を挙げながら解説していただきました。輸入食品の拡大や、安くて便利な食品に頼る食生活は知らないうちに様々な食品添加物を摂取していることにも気付きました。NPO 法人食品安全グローバルネットワーク事務局長としても活動されている先生の熱のこもったお話は、密度が濃く、難しいところもありましたが、学習して意見が出せる消費者になりたいと思いました。

第二部ではパネルディスカッション「一元化でどうかわる？」～私たち消費者が見極めるために～をテーマに、消費者代表としてC・キッズ・ネットワーク・食品表示チームの佐藤八重子氏、事業者サイドからネスレ日本株式会社・食品法規部部長の渡辺 寛氏、そして中村 幹雄教授にも加わっていただき、コーディネーター神戸ファッション造形大学教授・酒居 淑子氏の進行で、それぞれの立場から具体的な提案や意見がパワーポイントを使って発表されました。

佐藤八重子氏からは「誰にでもわかるアレルギー表示を！」「盛り合わせ食品にも産地表示を！」「比較できる栄養成分表示を！」など、日常の買い物時に感じる疑問を映像で分かり易く指摘され、会場からも共感の声があがっていました。ネスレ日本株式会社の渡辺氏からは、世界中で事業展開されている関係から欧米、特にEU・米国の食品表示規定について解説していただきました。事例では一面にぎっしり細かい文字で記載されている表示にびっくりしましたが、多言語による表示が必要とのこと。日本とに違いも感じました。

会場からも活発に質問や意見が出され、パネリストの方がたも時間ぎりぎりまでお答えいただきました。専門家、消費者、事業者それぞれの立場から見た食品表示の問題点をみんなで取り組む共通の課題として確認できたことは大きな成果だったと思います。

2012. 12. 13（前田）